

A Bamboo Child

Bamboo shoots are under the ground and pass through it here and there. And after a rainfall, they show their head on the ground.

This story is about the time when they are under the ground. They want to go far, so a mother bamboo scolded their children,

“You must not go far, because you are trodden by a horse outside a bamboo grove.”

No matter how many times a bamboo child was scolded, she crept far under the ground.

“Why not listen to me?”asked the mother.

“A beautiful and kind sound calls me over there.”answered the child.

“I can’t hear anything.” said the other bamboo children.

“But I can hear it. That’s incredible nice sound.” said she.

She went far and far, until she parted from the others and showed her head outside the hedge.

Then, a man, who had a flute, came near her and said,

“Oh, you are a lost bamboo child, aren’t you?”

“No, no. I was fascinated by your flute sound you played and came here.” said she.

After a while, she grew up to be a tall and firm bamboo. At last, she became a wonderful flute.(2022.12.14. Kudo: Original by Niimi Nankichi)



竹の子

竹の子は、はじめ地べたの下にいて、あっちこっちへくぐって行くものであります。

そして、雨が降った後などに、ぼこぼこ土から頭を出すのであります。

さて、このお話は、まだその竹の子たちが地べたの中にいた時のことです。

竹の子たちは遠くへ行きたがってしようがないので、お母さんの竹が、

「そんなに遠くへ行っちゃいけないよ、藪の外に出ると馬の足に踏まれるから」と叱っておりました。

しかし、いくら叱られても、一つの竹の子はどんどん遠くへもぐって行くのであります。

「お前はなぜお母さんの言うことを聞かないの」

と お母さんの竹が聞きました。

「あっちのほうで美しいやさしい声が私を呼ぶからです」

と、その竹の子は答えました。

「私たちには何も聞こえやしない」

と他の竹の子たちは言いました。

「けれど、私には聞こえます。それはもう何ともいわれぬ良い声です」

と、その竹の子は言いました。

そしてどんどん離れて行きました。

とうとう、この竹の子は他の竹の子たちと別れて、垣根の外に頭を出してしまいました。

すると、そこへ横笛を持った人が近寄って来て、

「おや、お前は迷子の竹の子だね」

と言いました。

「いえいえ、私は、あなたの吹いていらっしゃった、その笛の声があんまりよかったですので、こっちへ誘われて来ました」

と 竹の子は答えました。

さて、この竹の子は大きく硬くなった時、立派な横笛となりました。（原作：新美南吉）

